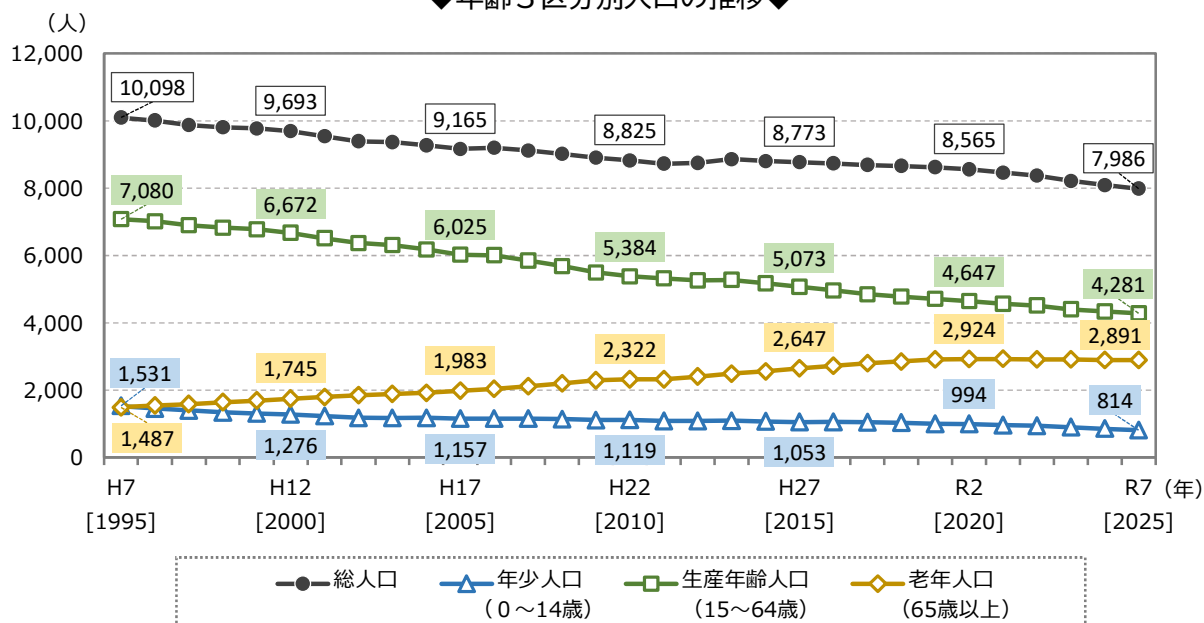


町の状況

1. 町の人口の推移と割合

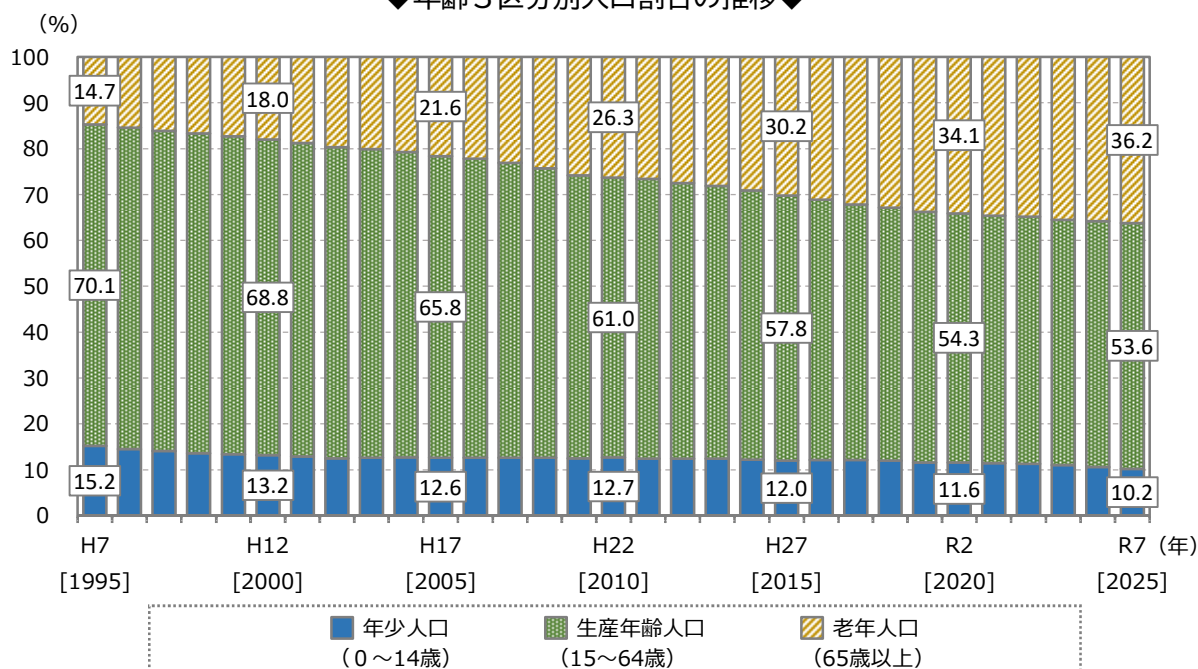
総人口は緩やかに減少しており、令和7年1月時点では7,986人となっています。また、直近5年間は、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）は減少、老年人口は高止まりとなっています。

◆年齢3区分別人口の推移◆



資料：総務省「住民基本台帳」（H7～H25は各年3月31日時点、H26～は各年1月1日時点）

◆年齢3区分別人口割合の推移◆

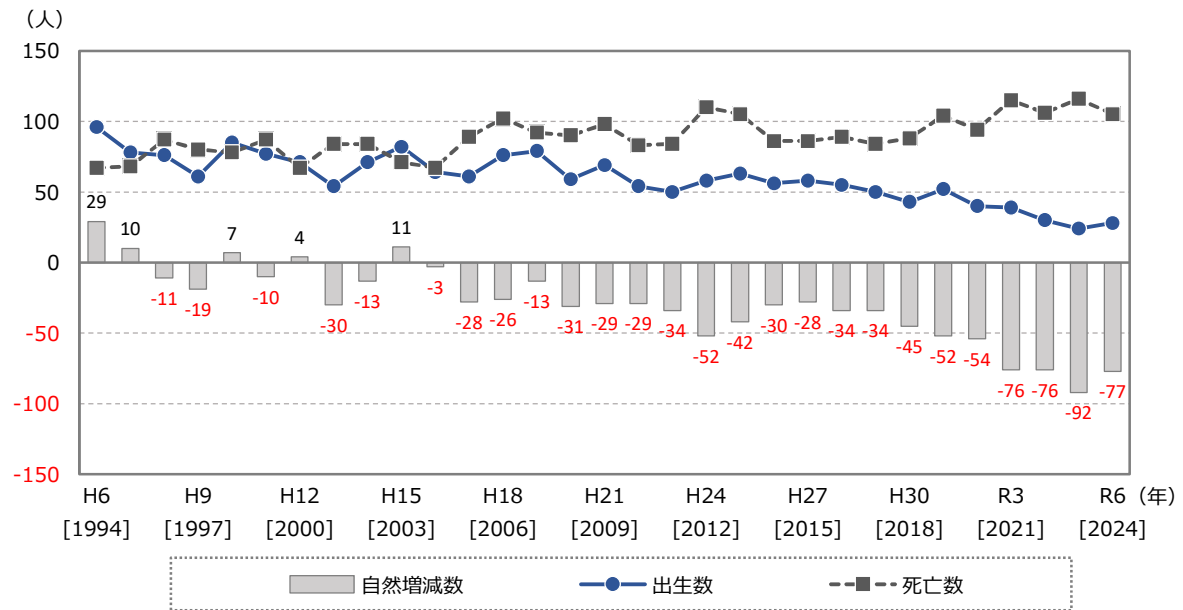


資料：総務省「住民基本台帳」（H7～H25は各年3月31日時点、H26～は各年1月1日時点）

2. 自然増減と社会増減

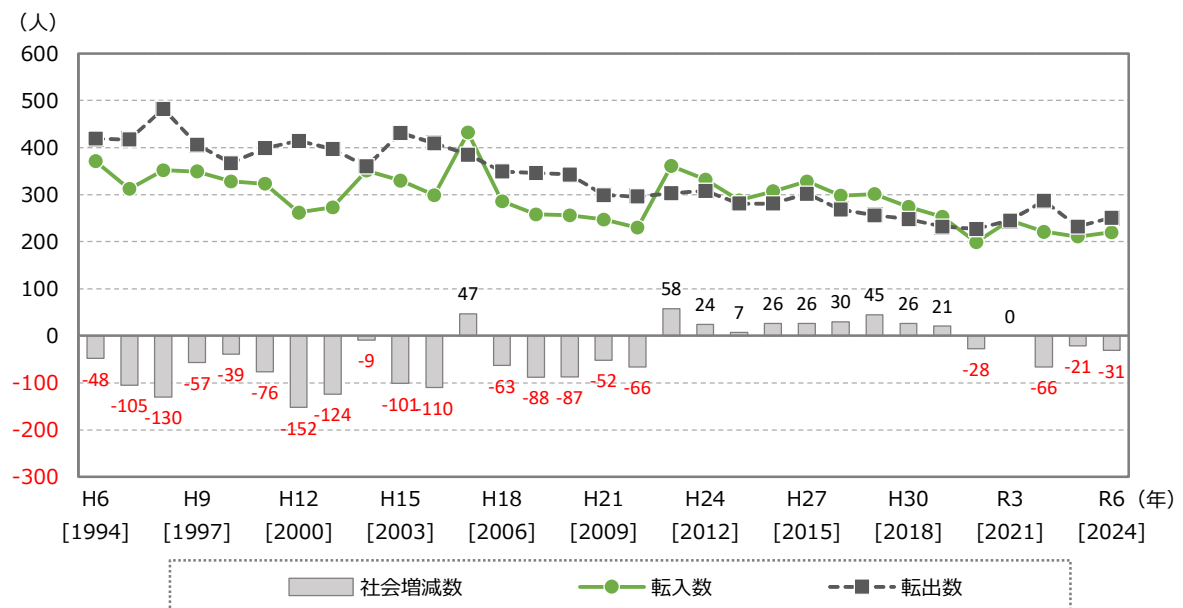
自然増減（出生数と死亡数の差）は減少で推移しており、その要因として出生数の減少と高齢化による死亡数の増加が考えられます。社会増減（転出数と転入数の差）は年により増減が見られます。

◆自然増減の推移◆



資料：総務省「住民基本台帳」（H6～H24は各年4月1日～翌年3月31日、H25～は各年1月1日～12月31日）

◆社会増減の推移◆

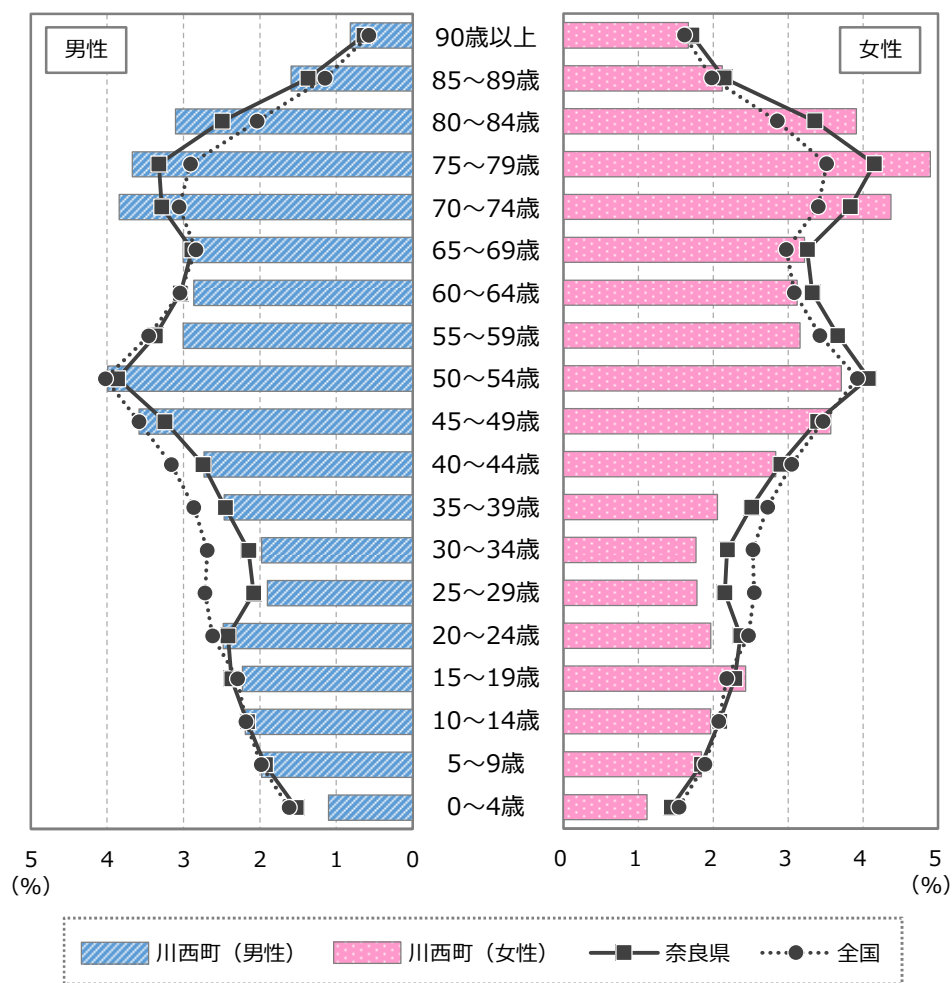


資料：総務省「住民基本台帳」（H6～H24は各年4月1日～翌年3月31日、H25～は各年1月1日～12月31日）

3. 人口構造

全体では、全国と比べて、65 歳以上の人口割合が高く、0 ～ 4 歳と 25 ～ 44 歳の人口割合が低い点が見られます。

◆ 5 歳階級別人口比の構成 ◆



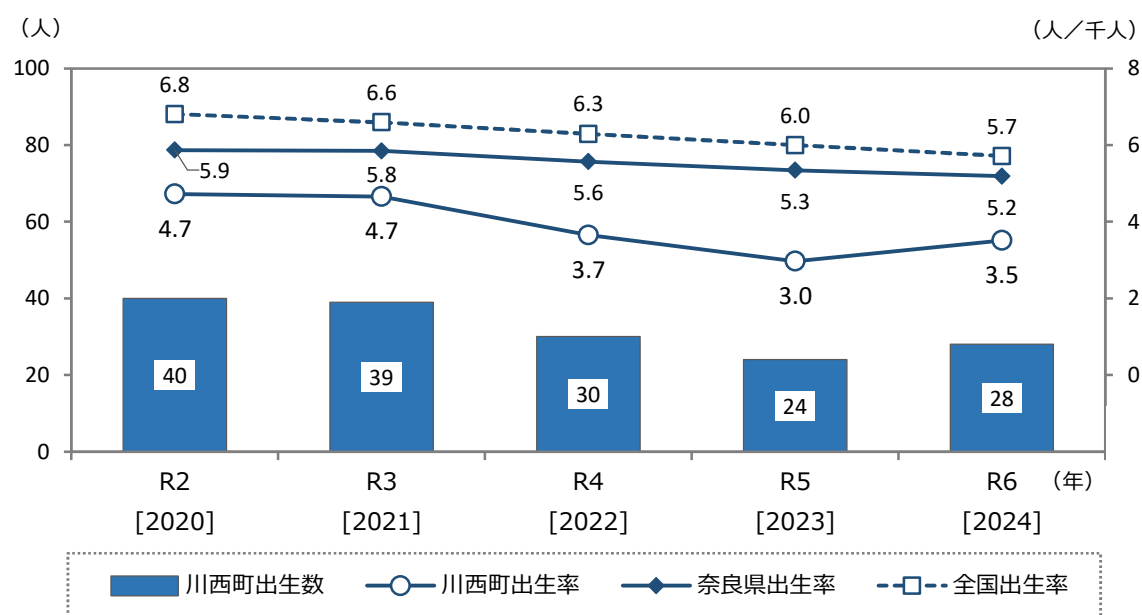
資料：総務省「住民基本台帳」（令和 7 年 1 月 1 日時点）

4. 出生の状況

本町の千人当たりの出生率は、全国及び奈良県と比べて低くなっており、出生数は令和6年で28人となっています。

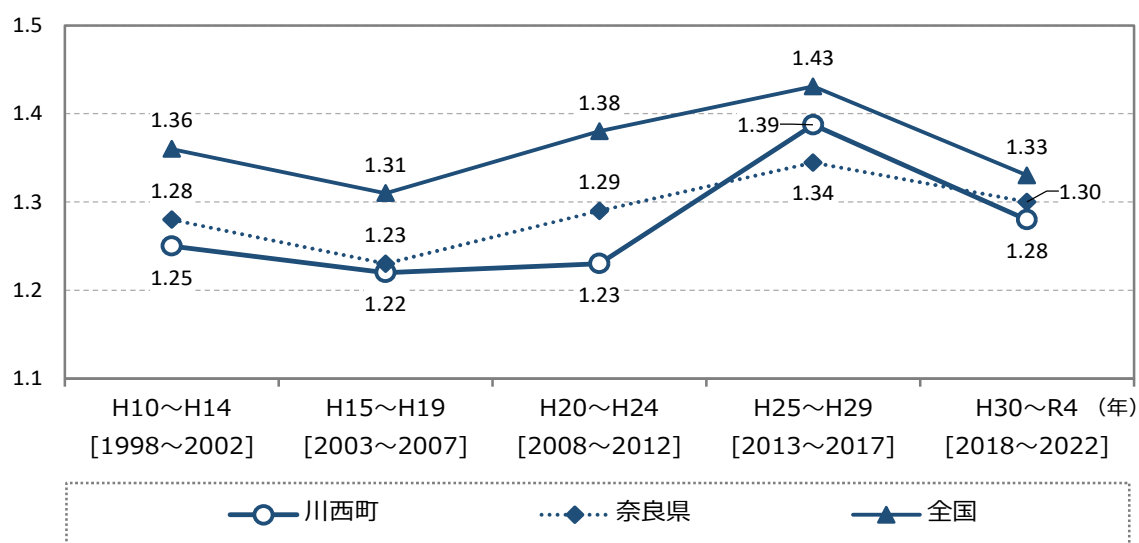
本町の合計特殊出生率^(※)は、平成25～29年を除くと、全国及び奈良県と比べて低い位置で推移しています。

◆出生数と出生率◆



資料：住民基本台帳

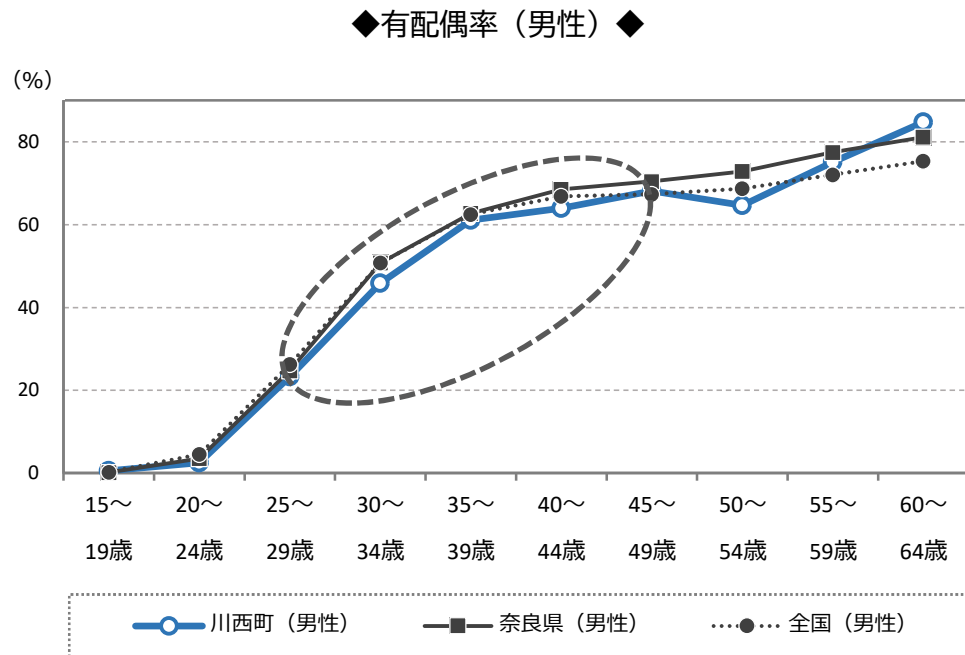
◆合計特殊出生率の推移◆



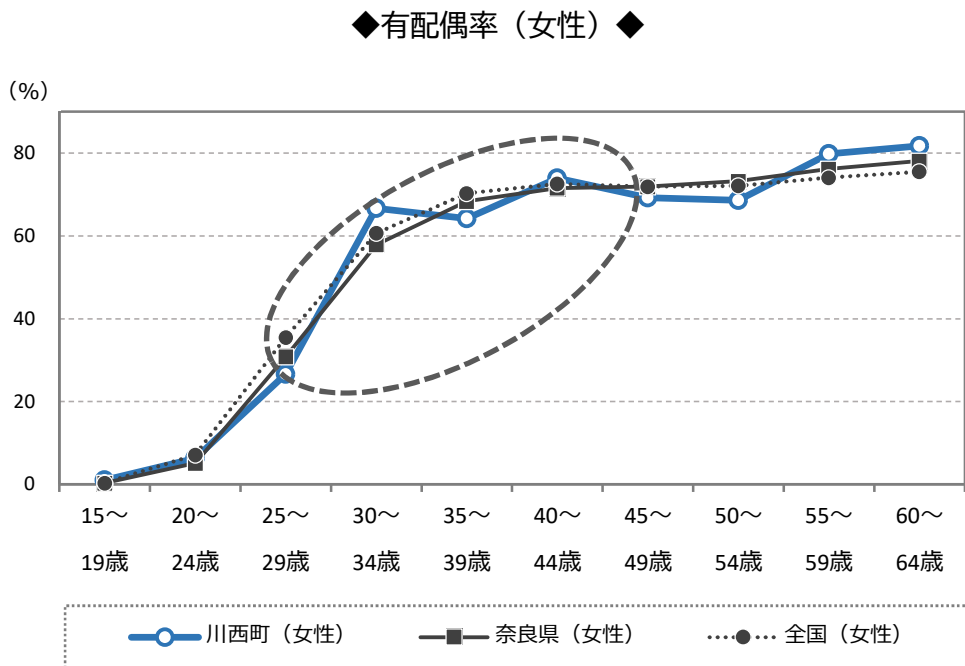
資料：人口動態統計特殊報告

5. 婚姻の状況

婚姻の状況を示す有配偶率について、子育て世代と言える25～44歳でみると、全国及び県と比べて、男性では30～34歳と40～44歳でやや低くなっています。また、女性では30～34歳は高く25～29歳と35～39歳はやや低くなっています。



資料：国勢調査（令和2年）

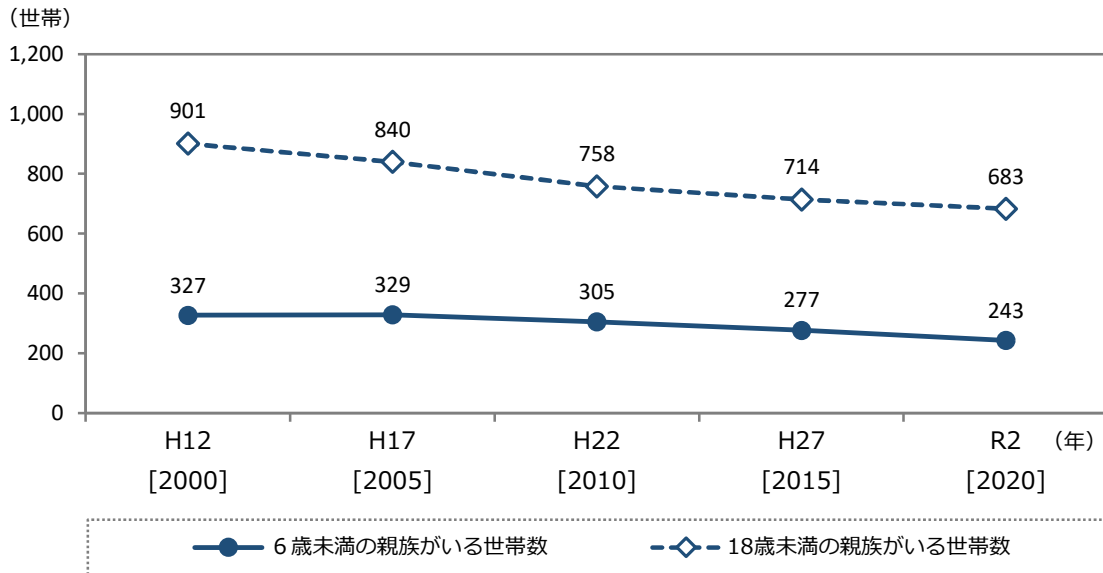


資料：国勢調査（令和2年）

6. こどものいる世帯の状況

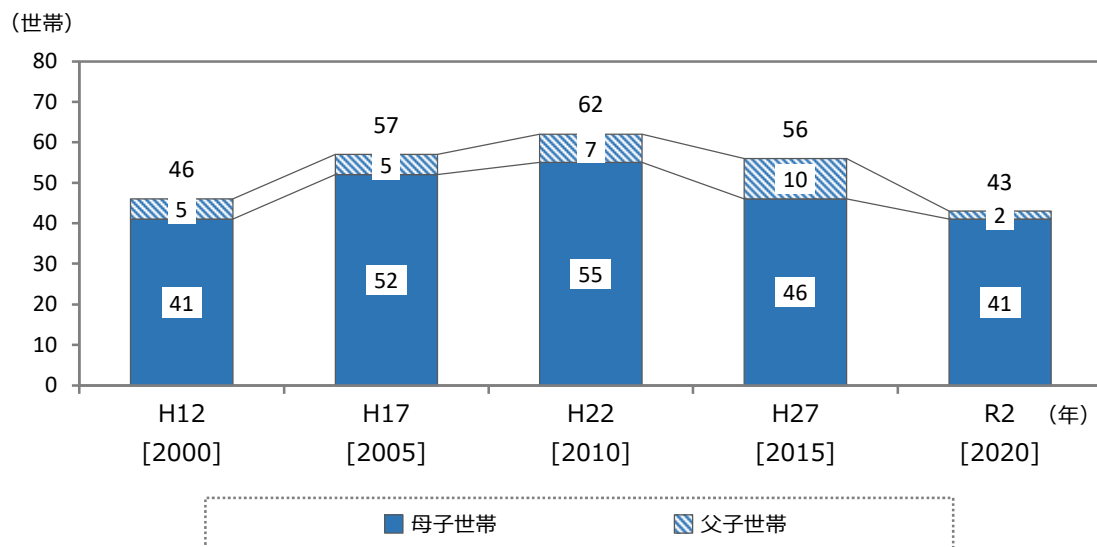
こどものいる世帯数は、減少傾向で推移しています。また、ひとり親世帯数は、平成22年をピークに減少に転じています。

◆こどものいる世帯数◆



資料：国勢調査

◆ひとり親世帯数◆



資料：国勢調査